

海外における日本語教育

資料6

平成27年9月4日
外務省大臣官房文化交流・海外広報課

現 状

- 日本語学習者数は約399万人。
(過去3年間で約33万人(9.2%)増
⇒ただし、増加率は鈍化。韓国では約12万人(12.8%)減)
- 上位3カ国(中国, インドネシア, 韓国)で全体の約7割。
⇒国・地域で大きな隔たり
※アジア地域以外の上位10カ国は豪州, 米国のみ
- 日本語学習ニーズは拡大。
 - ・マンガ・アニメ, 日本文化への関心
 - ・中等教育への日本語導入
 - ・日系企業の進出

問 題 点

- 教師・教材の不足(特に東南アジア)。
- 新興国の言語普及活動が活発化。
(中国:孔子学院, 韓国:世宗学堂+韓流)
⇒日本語の相対的な地位低下

他国語学教育実施機関の比較

アリアンス・フランセーズ(仏) (平成26年6月現在)
・語学講座は, 709か所 受講生は, 55.1万人

ブリティッシュ・カウンシル(英) (平成26年6月現在)
・語学講座は, 100か所以上 受講生は, 38.8万人

ゲーテ・インスティテュート(独) (平成26年6月現在)
・語学講座は, 218か所 受講生は, 24.7万人

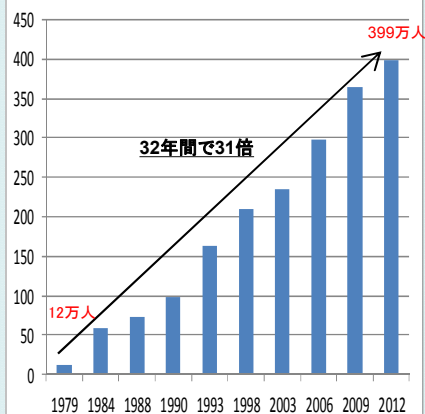
孔子学院(中) (平成26年6月現在)
・語学講座は, 1,086か所 受講生は, 65.5万人

世宗学堂財団(韓) (平成26年6月現在)
・語学講座は, 120か所 受講生は, 3.7万人

(平成27年3月現在)
※国際交流基金は, 語学講座31か所 受講生2.2万人

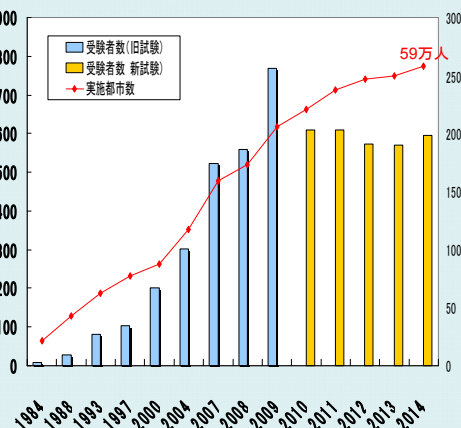
※自己回収の比率や運営形態はそれぞれであり, 単純比較は困難。

海外日本語学習者の推移



出典:国際交流基金「海外日本語教育機関調査」

日本語能力試験受験者数等



※2010年より新しい日本語能力試験を実施

外務省の施策・取組

●外務省は、在外公館及び国際交流基金を通じて日本語教育の普及に向けた取組を積極的に実施。

在外公館：日本語学習者の意欲向上のための事業（日本語弁論大会，日本語歌唱大会等）を実施。

（平成26年度実績：112件）

●一昨年、「海外における日本語の普及促進に関する有識者懇談会」を設置，課題や施策等につき議論。

平成25年7月に「議論の総括と政策提言」を岸田外務大臣に提出。12月に最終報告書を取りまとめ。

国際交流基金の主な取組①：「文化のWA(和・環・輪)～知り合うアジア～」

●東南アジアの教師・教材不足 → 「文化のWA(和・環・輪)～知り合うアジア～」を実施。

国際交流基金内にアジアセンターを立ち上げるとともに，2020年までの間，ASEAN地域を主な対象に，

以下の2本柱の事業を実施。

(1)日本語学習支援事業：「日本語パートナーズ」3,000人以上の派遣，総合日本語eラーニングコースの開設等

（日本語パートナーズのこれまでの派遣実績：インドネシア，タイ，フィリピン，ベトナム，マレーシア，ミャンマー計212名）

(2)双方向の芸術・文化交流事業：文化の担い手のネットワーク促進のため，人的交流を実施し，舞台芸術，美術，

映像等の様々な分野で協働事業を主催・支援

国際交流基金の主な取組②(全世界向け)

- 国際交流基金直営の日本語講座を31か所で実施
- 日本語教育専門家の派遣, 日本語教育機関支援, 教師・学習者への研修の実施
- インターネットを使った教育ツールの開発・提供
- 日本語能力試験の実施(年2回。平成26年度実績:67か国・地域258都市, 約59万人受験)等
- 平成27年度は, 日本語教育拠点(JFにほんごネットワーク)拡充の他, 米国中等教育支援強化, ブラジル人留学生支援など中南米支援強化にも取り組む予定。

